

經濟論叢

第八十六卷 第二號

- 労働市場論なき賃金論……………岸本英太郎 1
- ブルック・ファーム……………穂積文雄 19
- イギリス革命における農業・
土地問題分析の視角……………尾崎芳治 47
- 社会科学のひとつの立場……………出口勇藏 61
- 《記事》
- 昭和三十五年度京都大学経済学会大会における公開講演
および研究報告の要旨…………… 74
-

昭和三十五年八月

京都大學經濟學會

勢力と資本主義経済

向井利昌

勢力と資本主義経済との関連の考察は、資本主義の科学的解明を現実接近的に展開してゆく上での一大課題であるが、この場合の「勢力」とは、相手から服従せられる個人の能力一般であり、それは、威力、知力、武力、権力、経済的勢力などの諸形態に区分されうる。経済の本質を財の調達として把握し、それが社会的な制度または組織のなかで実現される場合を考へる時、一定の財に対する所有権または処分権は、特定の主体の何らかの勢力と結びついていることが、さらに言えば、あらゆる形態の勢力は、つねにその一側面において、社会的な関係における一定の物財に対する排他独占的な支配力である対物的勢力を包含していることが認められうる。

企業の累積的な利潤追求を根本原理として営まれている資本主義経済においては、資本の所有者の勢力を基本的なものとする経済的勢力が、諸対物的勢力のなかで中心的なものであるが、企業組織の規模の拡大を中心的事象とする資本主義経済体制の変動にともない、さらには種々の非経済的勢力よりの干渉により、右の所有者の勢力に対して、経営者および専門的職能を有

する被雇用者としてのホワイト・カラーなどの勢力、進んでは肉體労働者の勢力がしだいに台頭してくることが考えられるのであり、このような資本主義の変動との関連における諸対物的勢力の変動過程を、社会学の立場より理論的に分析することこそ、きわめて重大な意義を有するものである。

(神戸大学助教授)